# さくら派

## 放談に描く夢

**桜派**

桜派の夢は、深坂の森を桜で一杯にすることだ。その原点には一つの光景があった。

**韓国鎮海市の桜**

十年ほど前に、下関響灘ライオンズクラブは、提携している韓国の釜山大地ライオンズクラブとの交流のため韓国に行った。その折、鎮海（チネ）市の桜を見たのだ。その光景に圧倒された。未だにその光景を語るときは熱気を帯びる。語る言葉を捜しても見つからない。２０万本とも３０万本とも言われる桜だ。下関の市民が老若男女、みな家の外に出て桜の木になったと思へば想像がつくだろうか？オフィスからも学校からも、マンション、家々からも、バス、乗用車からも皆外に出て桜の木にな～れ！

**１０、０００本運動**

この光景に触発されて、始められた植樹事業は１０、０００本を合言葉にオーナーを募集して続けられてきた。

**オーナーの夢**

オーナーは孫の誕生、入学、結婚記念、退職、親の還暦、古希、世界平和、色々だ。自分達がこの世に居なくなった後も、「これはおじいちゃんが植えてくれたのだ。」と、大きくなった桜の木の下で家族が語り合う光景を夢見ている。

**花祭の夢**

花の時期ともなれば、深坂の森に、沢山の市民が押し寄せ、家族揃って仕合せそうに花見をする。ぼんぼりを下げ、屋台を出して、和やかに賑やかに、パーッとやりたいのだ。そこではさくら友の会も、餅を搗き、豚汁、ふく鍋を作ってサービスしたい。

**催し物の夢**

野立て、スケッチ大会、フォトコンテスト、仮装大会、のど自慢、ライブ？。御酒はほんのり桜色に頬を染める程度で、管弦の響を春風に乗せて、行く春を惜しむ。下関の春は深坂の森から来る夢。

**桜関連グッズ**

桜関連グッズも開発しなければならない。どうもこちらの方では余り良い智恵も出ない。名物料理、名物菓子、名物飲み物、ご婦人達の智恵と力を頼らなくてはならない。ケイタイのストラップはどうだろう。それも良いが陳腐だ。十軒も屋台を並べて、みなストラップを売っても仕方があるまい。わっはっは。

**実業人の夢**

実業人は実践的、現実主義的である。少年の頃、年中お腹を空かしていたせいか、食い物の話になると目が細くなる。花祭では餅つきをしようと一人が言い出す。すると草餅が良い。桜餅が良い。桜餅を作るなら、葉は前年に採って塩漬けしておかねばならないなどと話は細かくなってすぐ脱線する。みな人が良いのだ。労をいとわない。他人が喜んでいる顔を見るのが嬉しいのだ。でっかい夢は苦手？すぐ小さい夢になる。年令と共に夢が小さくなるのか？だが、文句は言うまい。それが、さくら友の会の今日を動かす原動力なのだ。

分かってきたことは、桜派は現実派である。

**破れかけた夢**

深坂の森がさくらで埋め尽される夢を見て始められた一万本植樹運動だったが、２０００本ほど一生懸命植えたところで、植える余地がなくなってきた。市と協議して新しく許可の出るところを探しているがそれほど多くは望めない。それと同時に、今まで植えたものの中から、台風で倒れたり、枯れたりするものが多く出てきた。あらためて維持管理の重要性に目が覚めた。植えた桜の木は市に寄贈され、これの世話をするところまで約束した覚えはないが、折角思いを込めて植えた桜の木が枯れてしまってはオーナーさんに申し訳ない気がして来た。もう一度金を出すから植え直してくれというオーナーさんも多い。

**つながった夢**

こうして出来たのがさくら友の会だ。

発起人の響灘ライオンズクラブのメンバーはさくら友の会に入会したが、いきさつと責任があるから、さくら派の色が濃い。一に桜、二にさくら。桜に適さない土地もあることは分かっていたが、適さないといってもどれ位適さないか、植えてみなければ分からないと実践して来たのだ。５、６年すると分かってきた。園芸の専門家も居ないわけではないが、個人の庭に丁寧に植える庭木とは違って、どこまで放っておいて育つかは、やって見なくては分からないところもあった。今まではやりたくても、手がない、時間がない、金がないだった。友の会の設立で、少しだけ夢が桜色になってきた。

**桜の種類**

さくらといえばソメイヨシノ、少しばかりの枝垂桜を除いては、全部ソメイヨシノを植えてきた。しかし、山桜の方が丈夫そうだ。ソメイヨシノは一斉に咲くところが見事だ。多種類を植えると開花時期がばらばらになる。

世界では桜の野性種は５０種類、大部分が東アジアで、中国３３種類、日本９種類、ヒマラヤ３種類だそうです。栽培品種を加えると３４０種類位あると言われるが、次々に新しい品種も発表されるので、はっきりしたことは分からないそうだ。日本原産の９種って何だ？ヤマザクラ、オオヤマザクラ、オオシマザクラ、カスミザクラ、エドヒガン、マメザクラ、タカネザクラ、チョウジザクラ、ミヤマザクラの９種。

**ライブ？登山競争？**

さくらにライブが合うかどうかは分からないが、若者達にも来て欲しい。そのためには今風でないといけない。ライブはどうだろう？ライブに行ったこともないおじさんが大真面目だ。ウン千円の会費で、ウン千人入ればウン百万円。さっそく獲らぬ狸の皮算用だ。

料金を取るならゲートが必要だろう。それに、会場となる広場も桜が少なくまだ小さいようだ。下関の他の桜の名所と比べても見劣りすのではないか。それならそれで、ライブを念頭に置いた広場整備が先ではないか？

登山競争はどうだ？深坂溜池からメンスキ（雌鋤先山）、オンスキ（雄鋤先山）、を経て竜王山まで一気に上れたら、日本アルプスも大丈夫だといわれている。あるいは吉見、内日などどこから登ってもよく、深坂に下りてきて豚汁を食べるなど。

夢を実現化するために今年も、元気に頑張ろう。

「深坂の森に描く夢」という題で、新春座談会を持ってもらった。出席頂いたのは、さくら友の会のメンバーの方たちだ。オーナー桜に思い入れを持って、熱烈な桜派が多いかと思いきや、案外緑派が多い。

桜、さくら、サクラと桜ばかりにこだわる必要はない。鋤先山の山肌に、霞むようにピンクの塊が眺められる光景が良い。幼い頃を大陸で過ごした方が、親から日本には桜があると聞かされていたが、想像つかなかった。



# みどり派

## 新春 深坂の森

**緑派**

桜に拘らないのが緑派だ。木は深坂の森に適した樹種なら多いほど良いと言う。桜は桜でも色んな桜の種類があって良いのではないか？

**大木が欲しい**

今は、神社の境内などを除くと、大木は余り見られない。大古の昔は何百年と言う樹齢の大木が、日本国中どこでも見られたに違いない。その大きさに畏敬の念がひとりでに湧いて来るような木を育てたい。気を配りながら守り育てていくならば、十年経ち百年経つうちに、掛け替えのない宝になっていくのだ。

**色んな種類**

人間にとって有用だからと、杉や檜ばかりを植林するのでなく、その土地に適した樹種を選び、なるべく人手を掛けないでも健康に成長するものが良い。湿ったところでは桜は寿命が短い。楓などが適している。市がイチョウ、ケヤキなどを砂防ダムの近くに植えているが手入れをしていない。杉、檜の間伐したところに桜でなくシャクナゲを植えたら良い。もっと山を知らなければならない。第一に今生えている木でさえ、われわれは良く知らない。もっと、丹念に調べて番号をつけて観察していきたい。とにかくいろんな種類の大木が欲しい。これこそ本当の木、本当の森だと言いたくなるような、そんな木がある森と言われるような。何百年先であろうと良い、子孫のために宝を残すのだ。

**森の形態**

木と木の間隔がある程度広く、落ち葉を踏んで人が入れる所も欲しい。鬱蒼と茂った小暗い森も良い。色んな形態の森があって良い。それをこの辺はこういう樹種で、密度はこれ位という風に、樹種や地形に合わせて好ましいデザインをすることが大事だと思う。

**日本自生の山野草**

竜王山への登山道など、一部を除くと、遊歩道が通行止めになっていたり、荒れている。遊歩道のそばにはできるだけ日本自生の山野草が欲しい。とはいえ、それは容易なことではないだろう。育ちやすい環境を作り出して加勢しなければならない。良く観察すると、毎年同じ所に同じ植物が群生するとは限らないらしい。絶えず変化している。山野草に詳しい人を招いて、散策しながら勉強できると良い。山菜採りもしたい。

**遊歩道コンペ**

遊歩道の周辺を１０坪、２０坪位の単位で、ところどころ希望者に管理を任せては？希望者はエリア理念を添えて申請する。それが周囲と調和し環境に害を及ぼさなければ許可するのだ。今まで荒れた遊歩道だったところが、特色あるスポットに変わって行けばオモシロイ。

ハイキング会を催して、それらのスポットの審査や人気投票をしても良い。

手を加え過ぎない。あるいは手を加えているように見えない豊かな自然の森を理想にしてはどうだろう。

**生態の観察**

植物をみんなで観察し、それらのデータを共有して生態を良く知らないと、植物に適した環境は生まれまい。すくすくと育っているからと、喜んでばかりは居られない。木が大きくなると風当たりも強くなる。台風では大きい木のほうが倒れやすいこともある。その植物が好むもの、好まないものを発見していくのは大変に違いない。だがパソコンもデジカメもない時代に先人達は、目で見てスケッチして書きとめていったのだ。それに比べると何と便利な世の中になっていることか。

**深坂の森事典**

みんなが参加して深坂の森事典を作りたい。木には一本一本番号をつける。赤ちゃんが生まれたら、名前を付けるではないか。木にも出生届をして貰うのだ。春夏秋冬、芽吹き、蕾、花の咲き方、枯れ方、実の出来方。子孫の残し方。一年の成長の速度。小鳥や虫、苔や茸との関係、病気など。調べることは無限にある。

**二次元コード**

それらの木々や群落に、二次元コードをつけて、それをケイタイ電話で読み取れば、ホームページが開いて、関連情報をその場で読み取れるようにもしたい。オーナー桜にも、二次元コードをつけて、成長の記録や、植えた人達の思いや、メッセージ、写真なども読み取れ得たら面白いかもしれない。

**森・川・海**

水産庁、林野庁、国土交通省により「森・川・海のつながりを重視した豊かな漁場海域環境創出方策検討調査」が平成１５年から行われるなど、各関連機関による魚付林の研究協力体制ができているようだ。深坂の森、友田川、久留見瀬などの関連を調べるのもオモシロイのではないか？

**行政との関わり**

深坂の森は市有地であり、オーナー桜も植樹と同時に全て市に寄贈している。しかし、市の財産とはいっても、それが市長や市の職員の財産ではない。市民の財産なのだ。市はそれを預かって管理しているのであるから、市民として色々要望を出したり、ボランティア活動をしたりするのは当然だ。しかし、勝手に活動しては、市も管理することは出来ないから調整するのは当然だ。さくら友の会の活動はそれなりに評価されていると思う。

山口県は「やまぐち森林づくり県民税」を徴収している。さくら友の会も具体的な活動の能力を備えれば、ＮＰＯ法人化してそれらの予算支出に相応する活動をする可能性は十分ある。

**地元との関連**

地元に若い人達の仕事が欲しい。農業、漁業はその土地と結びついているが、現状ではそれだけでは飯が食えない。若者の流出を食い止める力はない。森・川・海まで視野に入れて、山の自然を豊かにし、平野部の休耕田を再生し、漁場を豊かにし、ささやかでも一村一品に相当するものを産出し魅力のある地元になれば良い。深坂の森を愛する心が住民を結びつけて、地元で協力体制が出来、町おこしにつながって行くとおもしろい。緑派の夢も、深坂の森だけに留まらず、川を下り海にまで及んでいる。

町全体が自然遺産になることを夢見ている。

帰国して桜の美しさに出合い何ともいえない感動を覚えたと言われた。

深坂の森を守り育て、子孫に宝として残していければ良い。そんな温かい思いが滲み出た発言が多かったように思う。記事は座談会の他にも、発足準備委員会などで議論されたとき語られた思いなども拾って一緒に編集した。

座談会出席者

中原彰　会員交流部会
中山邦章　維持管理部会
平野正　〃
溝部弥三郎　〃
福富征男　友の会会長
城戸哲郎　事務局
野口周三　広報部（司会）